

# オクラの露地栽培

JAグループ和歌山農業振興センター 技術参与 本田 孝志

## 【はじめに】

オクラはアオイ科の野菜です。アフリカ北東部のエチオピア付近が原産で、高温を好みます。熱帯地域では多年草で、高さが6mにもなる種類もありますが、日本では冬に枯死するため一年草となります。

近年、美味しい食味に加え、ネバネバ成分（水溶性植物繊維のペクチン）が注目されています。病虫害の発生が少なく人気の高いオクラの露地栽培について紹介します。

## 【品種】

〔アーリーファイブ〕

オクラの代表的な品種。生育が早く、品質と収量性が優れている。

〔グリーンソード〕

アーリーファイブより、少し晩生の品種。実は緑色が濃く、食味も良い。

〔ヘルシエ〕

実は淡い緑色で、ねばねば成分である水溶性ペクチンの量が多い。肥料が多いと花が咲かないことがあるので、元肥は極少量にする。

## 【直播き・育苗】

直播きの場合、温度が低いと発芽率が悪いので5月上旬以降に播種し、マルチ被覆などにより地温を高めるようにします。種は1晩水に付けた後、1か所に5粒程度播種します。発芽本数が多い場合はハサミで2～3本に整理します。発芽日数は20℃で10日、25℃で5日程度となります。

育苗の場合、苗数が少ない時は9cmポットに4～5粒を播種して育苗します。苗数が

多い場合は、72穴セルトレーに2～3粒ずつ播種します。セルトレーは用土が少ないので植え遅れしないようにします。オクラはもともと直根性なので植え痛みが少ないよう注意が必要です。



定植時期のポット苗

## 【定植】

オクラの根は地下深く伸びるため、排水性の良い圃場で栽培します。堆肥と石灰資材を土壤に混合した後、元肥を施用します。元肥は10アール当たり窒素成分で10～15kgとします。

畝幅1.5m程度の畝を立て、株間は30cmで2条植え、1か所に2本程度の株を仕立てます。1本仕立ての場合は株間を狭くします。定植後は丁寧にかん水を行い活着を促進します。なお、雑草防除のため、黒マルチ被覆を行っても良い。

## 【栽培管理】

気温が高くなるとオクラは生育が急に良くなります。一番花開花後に、最初の追肥を行います。その後、2～3週間に1回程度の

追肥を行うと、樹勢が落ちずに長期間品質の良いオクラを収穫することができます。

風当たりの強い場所では、茎が倒伏しないように畝の両サイドにヒモを1段張り、支柱を2.5m間隔に立てるようにします。

オクラは茎の先端に新しい葉が次々と発生しますが、下の方の葉は養分を浪費するだけです。そのため、最下段の実の下に2枚程度葉を残し、その下の葉は除去します。また、茎の下部から側枝が発生してくるので、早めに除去し、茎葉が密になりすぎないようにします。



気温が高くなると生長が早くなります

### 【収穫】

開花後に実は急速に大きくなりますが、6月で約7日、7月では約4日で収穫適期である8cm程度の大きさになります。収穫が遅れると莢が硬くなるとともに、樹勢低下の原因にもなるので、適期収穫を行うようにしましょう。先にも紹介しましたが、オクラは気温が高くなると生育がとても速くなり、収穫遅れになることが多いです。そのため、最初は小面積で栽培するようにします。

なお、丸オクラは少し大きくなってからでも収穫できますが、5角オクラは莢がかたくなるのが早いので注意が必要です。

また、気温が低い場合、実の表面がぶつぶつした「イボ果」が発生することがあります

が気温が、高くなると回復します。病虫害被害ではないので心配はありません。



オクラの花は黄色で美しい

### 【主な病虫害防除】

オクラは病虫害に強い野菜ですが、天候や土壌など条件によっては病虫害が発生することがあります。主な病虫害について紹介します

〔アブラムシ〕

葉の裏や生長点付近に発生することがある。モスピラン顆粒水溶剤4000倍（前日／3回）で防除します。

〔オオタバコガ〕

幼虫が実を食害して穴を開けます。アフーム乳剤2000倍（前日／2回）、プレバソンプロアブル5の2000倍（前日／3回）で防除します。

〔ウドンコ病〕

葉に白い粉状の斑点ができます。防除薬剤はトリフミン水和剤5000倍（前日／3回）です。

### 【まとめ】

○適正な作付け面積で、作業遅れのないように

○開花後に実は急に大きくなるので、適期収穫に気を付ける